

---

## 1. 学歴

1986年 3月 国際基督教大学教養学部卒業

1993年 12月 ウィスコンシン大学マディソン校経済学部 博士課程修了, 博士号取得(Ph. D., Economics)

---

## 2. 職歴・研究歴

1990年 7月 米国, ワシントン DC 世界銀行調査局研究員

1995年 4月 横浜国立大学経済学部 助教授

2004年 4月 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 教授

2005年 4月 一橋大学大学院国際・公共政策大学院 教授

2010年 1月 - 2014年 3月 東京大学 公共政策大学院 医療政策ユニット 特任教授

---

## 3. 学内教育活動

### A. 担当講義名

#### (a) 学部学生向け

医療経済論

#### (b) 大学院

Microeconomics for Public Policy

Fundamentals of Econometric Methods

Economic Analysis of Social Policy

公共支出論

### B. ゼミナール

学部, 大学院

### C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部では東京医科歯科大学との連携講義で医療経済論, 2018年度からはゼミナールも担当。

大学院は主にアジア公共政策プログラムで統計・計量経済学, ミクロ経済学の講義, 社会政策の経済学など(英語による)を担当している。公共政策大学院で日本語の講義(公共支出論)を担当する年もある。

専門職大学院の教育として, 理論と現実の政策の接点に重点をおいて講義を行っている。

---

## 4. 主な研究テーマ

(1) 不確実性下の医療: 情報と合理的意思決定の分析

(2) 質と財政の両立を目指した医療制度構築(プライマリ・ヘルス・ケアのシステム)のための基盤研究

(3) 費用対効果分析

(4) ヘルスリテラシーを高めるための情報ソースのあり方

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### (a) 著書・編著

『医療サービス需要の経済分析』井伊雅子・大日康史, 日本経済新聞社, 2002年

『アジアの医療保障制度』東京大学出版会, 2009年

#### (b) 論文(査読つき論文には\*)

\*"Community Perceptions and the Demand for Health Services: El Salvador," (with Susan Kolodin) *Inter-America Development Bank Working Paper*, 1994.

"Japanese Health Care Reform in the Context of a Rapidly Aging Population," *Health Sector Reform in Asia, Proceedings of a Regional Conference, Asian Development Bank, Manila, Philippines*, pp.519-529, 1995.

\*"The Demand for Medical Care: Evidence from Urban Areas in Bolivia," *Living Standard Measurement Study (World Bank) Working Paper No.123*, 1996.

"Enhancing the Effectiveness of External Assistance: Social Impact of Adjustment Programs," *Proceedings for the Seminar for Deepening Structural Reforms and Policies for Growth in Africa*, Ministry of Finance of Japan, IMF and the World Bank, Paris, France. 1996.

「高齢化の経済分析」『経済分析』(八代尚宏氏, 小塩隆士氏との共著) 第151号, 経済企画庁経済研究所, 1997年。

「教育における市場と政府の役割について—3ヶ国の比較を中心に—」『市場と政府—ラテンアメリカの新たな開発枠組み』(小池洋一・西島章次編) 第13章, アジア経済研究所, pp.387-426, 1997年。

「公共支出と貧困層へのターゲティング」『開発と貧困』(絵所秀樹・山崎幸治編) 第4章, アジア経済研究所, pp.131-159, 1998年。

\*「家計データからみた南アフリカ共和国の貧困分析—特に家庭内送金と移住行動について—」(赤林英夫氏との共著)『アジア経済』Vol.40, No.9-10, 1999, pp.165-182。

\*「風邪における医療サービスと大衆医薬の代替性に関する研究—独自アンケートに基づく分析—」(大日康史氏との共著)『医療と社会』Vol.9, No.3, 1999年, pp.69-82。

\*「軽医療における需要の価格弾力性の測定—疾病及び症状を考慮した推定—」(大日康史との共著)『医療経済研究』Vol.6, 1999年, pp.5-17。

"Summary of Methods to Estimate Price Elasticity of Demand," *Handbook for the Economics Analysis of Health Sector Projects*, Asian Development Bank, pp.85-94, 2000年。

「疾病ごとの医療受診と大衆医薬需要の代替性」(大日康史氏との共著)『医療サービス:市場化の論点』(瀬岡吉彦・宮本守編) 第5章, 東洋経済新報社, pp.75-89, 2001年。

\*「インフルエンザ予防接種の需要分析」(大日康史氏との共著)『日本公衆衛生雑誌』Vol.48, No.1, 2001年, pp.16-27。

「医療経済」『医学生のお勉強』(黒川清編著) 第6章, 芳賀出版, pp.339-429, 2002年。

「患者負担増による医療費抑制効果」『医療白書 2002年度版』第2章, pp.17-31, 日本医療企画, 2002年。

\*"Should the Coinsurance Rate be Increased in the Case of the Common Cold? An Analysis Based on an Original Survey," (with Yasushi Ohkusa) *Journal of the Japanese and International Economies* Vol.16, No.3, 2002, pp.353-371.

\*"Price Sensitivity of the Demand for Medical Services for Minor Ailments: Econometric Estimates Using

- Information on Illness and Symptoms," (with Yasushi Ohkusa) *The Japanese Economic Review* Vol.53, No.2, 2002, pp.154-166.
- \*「わが国における女性賃金水準の就業行動への影響の分析」(縄田和満氏との共著)『日本統計学会誌』32巻, 第3号, 2002年, pp.279-290。
- \*「疾病毎の医療受診とOTC需要の代替性に関する分析」(大日康史氏との共著)『季刊・社会保障研究』38巻, 2号, 2002年, pp.157-165。
- 「「ゲーム理論」の導入が抜本改革への近道」『ばんぶう』日本医療企画, pp.60-67, 2002年。
- 「医療費を考える:消費者の需要行動と医療の質から」『患者のための医療』篠原出版新社, pp.733-738, 2003年。
- \*「生活習慣と主観的健康評価についての実証分析」(両角良子氏との共著)『医療と社会』Vol.13, No.3, 2003年, pp.45-72。
- \*「横浜市における救急医療の需要分析」(大重賢治氏, 縄田和満氏他との共著)『日本公衆衛生雑誌』Vol.50, No.9, 2003年, pp.879-889。
- 「社会保障」現代世界経済叢書『日本経済論』(植松忠博・小川一夫編著)第10章, ミネルヴァ書房, pp.227-250, 2004年。
- \*「職場の喫煙規制に関する実証分析」(両角良子氏との共著)『医療と社会』Vol.14, No.1, 2004年, pp.109-124。
- \*"Estimation of the Labor Participation and Wage Equation Model of Japanese Married Female by the Simultaneous Maximum Likelihood Method," (with Kazumitsu Nawata) *Journal of the Japanese and International Economies*, 18, 2004, pp.301-315.
- \*「眼科水晶体手術における在院日数の離散型比例ハザード・モデルによる分析」(縄田和満, 石黒彩, 川淵孝一氏との共著), 2006年, 医療経済研究 Vol.18, No.1, pp.41-55。
- 「医療の基礎的実証分析と政策:サーベイ」(別所俊一郎氏との共著)2006年, 『フィナンシャルレビュー』第80号, pp.117-156。
- \*"The impact of smoke-free workplace policies on smoking behaviour in Japan,"(with Ryoko Morozumi) 2006, *Applied Economics Letters* Vol.13, pp.549-555.
- \*「水晶体の単眼・両眼手術における在院日数の分析」(縄田和満, 石黒彩, 川淵孝一氏との共著), 『医療と社会』2006年, Vol.16, No.2, pp.167-180。
- 「データに基づいた医療政策」『日本医師会雑誌』第135巻・第12号別冊, pp.35-48, 2007年。
- "History of Health Insurance Systems in Japan from Meiji to Showa: From Nothing to Universal," *Health Service and Poverty: Making Health Services More Accessible to the Poor* edited by Hiroko Uchimura, Institute of Developing Economies. 2007.
- 「医療制度改革—地方の負担の在り方を考える」『国際税制研究』2008年, No.18, pp.45-53
- 「日本の医療保険制度の歩みとその今日的課題」『医療と社会』2008年, Vol.18, No.1, pp.207-220
- 「医療統計の体系化:統計委員会の基本計画に向けて」『医療経済研究』2008年, Vol.20, No.1, pp.5-13
- \*「白内障手術におけるDPCによる包括支払制度の評価」(縄田和満, 外山比南子, 高橋泰氏との共著)『医療と社会』2008年, Vol.18, No.2, pp.229-242
- "Reducing Medical Expenses by Revising the Medical Service Fee Schedule: An Analysis of Cataract Treatments in Japan," (with K.Nawata, K.Kawabuchi and A.Ishiguro) *Journal of Applied Econometrics* 投稿中
- \*"Development of Social Health Insurance Systems: Retracing Japan's Experience," *MAKING HEALTH SERVICES*

*MORE ACCESSIBLE IN DEVELOPING COUNTRIES: Finance and Resources for Functioning Health Systems*, ed. by Hiroko Uchimura, Palgrave Macmillan, 2009, pp.80-105.

「期待される医療統計のあり方」『病院』医学書院 2009年, Vol.68, No.2, pp.98-102。

「日本の医療保険制度」『経済セミナー』2009年, 4・5月号, No. 647, pp.65-71。

「医療政策に必要なのはデータに基づいた議論」『日本の医療は変えられる』伊藤元重・総合研究開発機構 編集, 東洋経済新報社, 2009年。

「医療経済学」『医療政策』入門』東京大学医療政策人材養成講座, 医学書院, 2009年 pp.97-114。

\*"Evaluation of the Inclusive Payment System Based on the Diagnosis Procedure Combination with Respect to Cataract Operations in Japan," (with K.Nawata, H.Toyama,T.Takahashi), 2009, *Health* Vol.1, No.2., pp.93-103.

「社会的共通資本としての統計情報」『保健医療科学』2010年, Vol. 59, No.1, pp.17-20。

\*"Facilitators and barriers in the humanization of childbirth practice in Japan," (with R. Behruzi, M. Hatem, W. Fraser, L. Goulet, C. Misago) *BMC Pregnancy and Childbirth*, 10:25 (27 May 2010)

\*「低所得世帯における社会保険と生活保護の現状に関する研究」(河口洋行との共著)『医療経済研究』2010年 22(1), pp.91-108。

\*"Did the Financial Crisis in Japan Affect Household Welfare Seriously? ," (with Y. Sawada, K. Nawata, M. J. Lee) 2010, *Journal of Money, Credit, and Banking*, 43(2-3) , pp.297-324

「医療費の範囲と「国民医療費」」(『医療経済学講義』橋本英樹・泉田信行編 東京大学出版会, 253-273 頁, 2011年。

「先進国の医療制度改革と日本への教訓 — オランダの家庭医療制度を中心に」『成長産業としての医療と介護—少子高齢化と財源難にどう取り組むか』八代尚宏・鈴木亘編 日本経済新聞社, 211-237 頁, 2011年。

"Challenges in Reforming the Japanese Health Care System", *The Economics of Public Health Care Reform in Advanced and Emerging Economies* , International Monetary Fund (2012).

\*「医師数, 医療機関数, 病床数, 患者数のバランスから評価した医療資源の地域格差とその推移」(関本美穂との共著)『厚生指針』9月号, 2013年, 60巻, 11号, pp.1-8。

「高齢者に必要な医療・介護とは? — 国民健康保険データ分析からの提言 —」(森山美知子との共著) *ECO-FORUM* 29(2-3): pp.11-18, 2014年2月。

「日本の患者は幸せか?【医療経済から見たプライマリ・ケアの重要性】」『環』2014年, vol.56, pp.174-185。

"Protecting Our Lives through Healthcare Reform" *Japan SPOTLIGHT*, Jan/Feb 2014 , pp.16-19.

「社会保障財政における番号制の活用と課題」(吉識宗佳との共著)『病院』2014年 6月, Vol.73, No.6, pp.440-444。

「プライマリ・ケア研究事始め — 次世代の医療制度の研究-」『ヘルスリサーチ 20年 — 良い社会に向けて—』公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団 20周年記念誌, 2014年, pp.53-63。

\*"Supplier-Induced Demand for Chronic Disease Care in Japan: Multilevel Analysis of the Association between Physician Density and Physician-Patient Encounter Frequency," (with Miho Sekimoto) *Value in Health Regional Issues* 6C ,2015,pp.103-110.

「日本のプライマリ・ケア制度の特徴と問題点」(関本美穂との共著)『フィナンシャル・レビュー』2015年, pp.6-63。

「地域医療・介護の費用対効果分析に向けて」責任編集 『フィナンシャル・レビュー』123号, 2015年, pp.6-63。

「医療サービスの質の向上と財政を両立する医療提供体制の在り方」『租税研究』2015年, 787巻, pp.17-49。

\*"Evolving Health Policy for Primary Care in the Asia Pacific Region,"(with van Weel Chris, et al.) *British Journal*

*of General Practice*, 2016 Jun, 66(647), e451-3.

「保健医療統計の陥穽～国際比較をめぐって～」『医療経済学会 10 周年記念誌 医療経済研究のこれまでとこれから』, pp.6-9, 医療経済学会, 2016 年 6 月 30 日。

「地域医療の支払い制度: 医療は誰のためにあるのか」『医療・介護に関する研究会』報告書 財務省財務総合政策研究所, 2016 年, pp.5-32。

「医療費の範囲と「国民医療費」」(『医療経済学講義 補訂版』橋本英樹・泉田信行編 東京大学出版会 253-274 頁 2016 年。

\*「高い国民幸福度を支えるデンマークの家庭医療とは ～家庭医療先進国研修ツアー報告～」藤原学, 山内健士朗, 井伊雅子, 葛西龍樹 『日本プライマリ・ケア連合学会誌』 2018, vol.41, no.2, pp.75-77。

「[特集 1]プライマリヘルスケア 40 周年: 医療経済学とプライマリ・ケア」『国際保健』 2018, vol.33 no.2, pp.99-104。

\*"Are Japanese People Satisfied with Their Health Care System and Services? Empirical Evidence from Survey Data," (with B Niu), *Health Policy*, 2019. (出版予定)

\*「ビデオレビューを積極的に取り入れたカナダでの家庭医療専門研修～家庭医療先進国研修ツアー報告」中澤祐太郎, Maham Stanyon, 菅家智史, 井伊雅子, 葛西龍樹 『日本プライマリ・ケア連合学会誌』 in press.

## B. 最近の研究活動

### (a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には\*)

日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会「家庭医療の包括的診療を反映する 診療報酬及び医療制度のあり方を探る」 2018 年 6 月 17 日

\*WONCA Asia Pacific Regional Conference 2019 Plenary Session 5 : Cost-effectiveness How to tackle NCDs in the era of tightening budget constraints: experts opinions "Why do we need health technology assessments (HTAs)" 2019 年 5 月 17 日

\*WONCA Asia Pacific Regional Conference 2019 Plenary Session 6 : Research Scaling-up regional comparative outcome studies on countries' health systems and primary care status "Primary health care data to support health-economics: Turning soft values in hard data" 2019 年 5 月 17 日

一橋大学・中国人民大学共催「第9回アジア政策フォーラム Creating Changes in Health and Care Systems Towards Sustainable Development in Ageing Society」"Building Healthcare Satisfaction: How Can We Use Empirical Evidence from Survey Data?" 2019 年 7 月 2 日

Asian Economic Policy Review (AEPR) Conference

Comment on "Pandemic and Crimes: The Effect of Covid-19 on Criminal Behavior in Japan" オンライン, 2020 年 10 月 3 日

第 85 回日本健康学会総会 教育講演「安心安全のための医療制度—医療経済学から考える—」 2020 年 12 月 5 日 (オンライン開催)

WONCA European Regional Conference 2020 "Decision-making under uncertainty: results from a multisector 'think tank' exploring how to make a difference in Japan" December 17, 2020 (online)

### (b) 国内研究プロジェクト

「高齢者医療・介護統合モデルの構築と政策への適用—日米欧 8 カ国の国際共同研究—」 2012 - 2016 年度 科学研究費補助金基盤研究(A), 研究分担者 (研究代表者: 河口洋行)

「質と財政の両立を目指した医療制度構築のための基礎研究」 2013 - 2017 年度, 科学研究費補助金基盤(B), 研究代表者

「日本の社会政策の成功と失敗: アジアは何を学べるか」 2015 - 2017 年度, 科学研究費補助金基盤研究(A), 研究分担者(研究代表者: チャールズ・ユウジ・ホリオカ)

「ダイナミック・マイクロシミュレーションモデルの拡張とその社会保障制度改革への応用」 2015 - 2017 年度, 科学研究費補助金基盤研究(B), 研究分担者(研究代表者: 稲垣誠一)

### (c) 国際研究プロジェクト

「不確実性下の健康診断: 非合理的な効用関数を持つ被験者の確率評価とその政策的含意」 2018 年度 京都大学経済研究所 プロジェクト研究 (研究代表者: 井伊雅子)

「不確実性下の医療: 情報と合理的意思決定の分析」 2018 - 2022 年度 科学研究費補助金, 基盤(B), 研究代表者(井伊雅子)

「不確実性下の健康診断: 被験者の確率評価と情報仲介者の家庭医としての役割」 平成 31 年度 京都大学経済研究所 プロジェクト研究 研究代表者

「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ事業のインパクト評価」(研究代表者: 佐藤主光) (科学研究費、基盤研究(A), 2018-2022 年度)研究分担者

「国民の健康づくり運動の推進に向けたNCD対策における諸外国の公衆衛生政策の状況とその成果の分析のための研究」(厚生労働科学研究費補助金、2020-2024 年度、厚生労働省)研究分担者

「低所得国における医療技術評価を活用した効率的な医療資源配分の推進」(JSPS 研究拠点形成事業 B. アジア・アフリカ学術基盤形成型、2020-2023 年度)研究参加者

### (d) 研究集会オーガナイズ

日本経済学会 2016 年度秋季大会実行委員会プログラム委員長

第 15 回 医療経済学会 研究大会 大会長 2020 年 9 月 5 日

財務省財務総合政策研究所 機関誌『フィナンシャル・レビュー』責任編集「過剰医療と過少医療の実態とその財政への影響」2020 年~2021 年 論文計画報告会 オンライン 2020 年 12 月 14 日

---

## 6. 学内行政

### (b) 学内委員会

ハラスメント対策委員会委員 (2014 年 - )

---

## 7. 学外活動

### (a) 他大学講師等

東京医科歯科大学医学部非常勤講師(2010 年 - )

### (b) 所属学会および学術活動

日本経済学会, International Health Economics Association, 医療経済学会

### (c) 公開講座・開放講座

財務省財務総合政策研究所(MOF PRI)・国際通貨基金財政局(IMF FAD)・アジア開発銀行研究所(ADB I)

Tokyo Fiscal Forum 2016「高齢化社会における長期的な成長と財政の持続可能性に向けた財政政策:持続可能な社会保障支出の達成」セッション 2『持続可能な医療制度を達成するための方法』討論者 三田共用会議所, 2016年6月6日

「医療・介護制度改革の課題:2025年度を見据えた医療・介護制度のあり方」参議院事務局 2017年1月24日  
「プライマリ・ケアの必要性:患者の視点から」、『熊本県のこれからの地域医療の方向性を見据える』熊本大学臨床医学教育研究センター奥窪記念ホール 招待講演 熊本県地域医療支援機構主催 2017年3月4日  
「テーマ4: 医療の質の評価と支払制度」一橋大学 HIAS Health 社会連携プログラム 医療経済短期集中コース 2017年11月17日  
「プライマリ・ケアの質をどのように測るのか」一橋大学政策フォーラム「データから見る日本の医療」2018年5月18日  
「プライマリ・ケアの質をどのように測るのか」内閣官房社会保障改革担当室勉強会 2018年5月25日  
第451回一橋大学開放講座 人生百歳時代 医療の使い方「適切な医療とは」2019年6月18日  
医療科学研究所 医研シンポジウム 2019「2040年問題に備える- 豊かな長寿社会を将来世代に引き継ぐ-」  
"地域住民の健康を支える制度とは" 講演とpanel discussion 2019年9月13日  
日本学術会議 学術フォーラム 認知症一予防と共生に向けて学術の取り組み」で報告(報告タイトル:「認知症・・・学術会議は何かができるか、学術会議に何を望むか」) 2020年2月14日 学術会議

#### (e) その他(公的機関・各種団体・民間企業等における講演等)

「医療システムにおけるイノベーションと持続可能性の両立に向けて」グローバル専門家会合 パネリスト 2017年4月14日 日本医療政策機構・米国戦略国際問題研究所 共催  
Town Hall Meeting with IMF 専務理事 Christine Lagarde for JISPA Scholars 2017年11月8日 ホテルオークラ  
ニッセイ基礎研究所 「保健医療制度の費用対効果を考える」2017年11月20日  
丸の内政経懇話会 「日本の医療の質について:医療経済学の視点から」三菱クラブ 2018年4月19日  
「セネガル国コミュニティ健康保険制度及び無料医療制度能力強化プロジェクト」のカウンターパート本邦研修「医療保障制度に関する能力強化」において「診療報酬の支払い制度:日本の経験、先進国の例」JICA 2019年6月14日  
「日本の医療制度とコロナによる病院資源の逼迫問題について」日本アカデミア オンライン勉強会 2021年1月20日

## 8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

NHK 経営委員(2015年3月 - )  
日本学術会議 連携委員(2014年 - 2017年、2020年-)  
日本学術会議 委員(2017年 - 2020年)  
東京都医療審議会 委員(2014年 - )  
財務省財務総合政策研究所 フィナンシャル・レビュー 編集審査委員(2013年 - )  
政府税制調査会委員(2013年 - )  
国立がん研究センター研究開発費 運営委員会 外部委員 (2018年 - )  
内閣府 EBPM アドバイザリーボード (2020年10月8日 -)

独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(審査委員)(2016年)

審査第一部会経済学小委員会 2016年2月22日

審査第二部会経済学小委員会 2016年2月23日

独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(審査委員)(2017年)

審査第一部会経済学小委員会 2017年2月21日

審査第二部会経済学小委員会 2017年2月22日

審査第二部会人文社会系複数細目小委員会 2017年2月24日

審査第二部会複数細目小委員会 2017年2月24日

平成27年度 厚労科研費(政策科学推進研究事業)評価委員(2016年-2020年)

平成28年 政策コメンテーター委員会 総会 ANA インターコンチネンタルホテル東京 2016年7月20日

## 9. 一般的言論活動

「幸福のための取捨選択」『医療と社会』巻頭言 Vol.15 No.4 2016.

日本経済新聞 私見卓見「専門医制度の導入を急げ」2017年4月14日

「新医療経済学:医療の費用と効果を考える」『経済セミナー』2017年4・5月号 No.695より 一年間(6回)の連載(五十嵐中, 中村良太との共著)

1「なぜ医療で「経済学」なのか」2017年4・5月号 No.695 pp.62-70.

2「情報と医療:不確実性の下での意思決定と情報」2017年6・7月号 No.696 pp.73-82.

3「医療経済学と「行動」行動変容、どうやって起こす？」2017年8・9月号 No.697 pp.80-89.

4「費用対効果評価と、その政策応用」2017年10・11月号 No.698 pp.59-68.

5「医療経済学とエビデンス」2017年12・1月号 No.699 pp.69-79.

6「医療政策に社会的価値観を反映させる」2018年2・3月号 No.700 pp.66-75.

『専門性の高い「かかりつけ医」の導入で:費用対効果の低い日本の医療構造にメスを』Wedge 2017年10月号 pp.26-28.

「評価対象、適用の拡大を:医療に費用対効果の視点 下」日本経済新聞 経済教室 中村良太氏との共著 2019年6月19日

提言「認知症に対する学術の役割 -「共生」と「予防」に向けて-」の共同執筆

日本学術会議 認知障害に関する包括的検討委員会 2020年9月11日

英国 Routledge からの依頼で、書籍化のための評価, 2020年8月

コロナ危機下の医療提供体制と医療機関の経営問題についての研究会

「医療提供体制の崩壊を防止し、経済社会活動へ影響最小化するための6つの緊急提言」

2020年9月25日記者クラブ 記者会見

「コロナ対策データ基盤に:医療体制とコスト(上)」日本経済新聞 経済教室 2020年11月23日